

児童の様子

5月の目標「友達と仲良く過ごす」

さんこう児童クラブでは毎日おやつ後に宿題の時間を取り入れています。

強制はしていませんが、子どもが宿題を自ら進んでできるように関わってきました。

最初は先生の声かけで始めることが多く、早く終わらせようと急いで書いている子も見られました。しかし、毎日取り組んでいくうちに、友達と一緒に宿題をして、教え合うことができる良さに気づく子が増え、次第に自ら進んで宿題を行うようになりました♪

また、字の練習の宿題では鉛筆をしっかりと持って姿勢を正し、1文字1文字を丁寧に書こうとする子どもたちも少しずつ増えてきています(^^)

その中で友達との関係も深まり、児童クラブの友達みんなでよく UNO やトランプなどを楽しみ、仲良く過ごす姿がよく見られるようになりました♪

これからも子どもたちが楽しく過ごせるよう色々な活動を子ども達と一緒に考えていきたいと思っております(^^)



友達と一緒にすると楽しい♪



1文字1文字丁寧に…



今月のおたのしみ



- 傘の染め紙製作
- 戸外活動（爆弾ゲーム・ケイドロなど）
- 雨の壁面づくり（子どもたちとどんな内容にするか考えていく）

お知らせとお願い

日中夏を超える気温になる日が多くなってきました。子どもたちも自分で熱中症にならないように考えて、水分補給をしている姿が見られています。

最近、「お茶がもう無くなった・・・」というつぶやきが聞かれることも・・・！

そこで、お願いです。クラブの方でもお茶を準備しておりますが、水筒のサイズが小さいお子様は、大きめの水筒を持たせて下さいますようお願いいたします。

学校法人永原学園
さんこう
児童クラブ通信
令和4年6月発行
— 第1号 —

【三光幼稚園 TEL：0952-31-0753】
【さんこう児童クラブ携帯】
TEL：090-7430-1312

さんこう児童クラブが、佐賀キャンパス内に開設して2か月が経ちます。ここでの生活に、児童もスタッフもようやく慣れてきました。今月から、毎月通信を発行して子ども達の様子を伝えていきますので、引き続き、温かく見守って頂けると幸いです。

さんこう児童クラブでの出会いをお待ちしております♡

学校の授業が終わる。放課後の時間である。勉強の縛りから解放される。自由の空気が心をよぎる。この気持ちに答える児童クラブでありたい。私が一度訪れた時は、子どもたちは宿題を済ませた後、担当の先生や学生と絵を描いたり、折り紙をしたりしていた。私は一人の子どもと将棋をさした。昔を思い出しながら、何とか将棋をうった。私の中で子どもの頃のなつかしさが蘇った。それを見ていたもう一人の子どもが「次は僕としよう」と声をかけた。今度はその子と将棋を指すことを約束した。私の訪問を子どもたちが喜んでいと、担当の先生が知らせてくれた。小さな出会いである。私の中で出会いが喜びとなって残った。さんこう児童クラブは西九州大学の佐賀キャンパス内にある。うれしい出会い、喜びの出会い、感動の出会いが、今後さまざまに生まれる。佐賀キャンパスの空間で過ごされる方々のご訪問を心待ちにしています。教職員の方々、学生の皆さん、子どもたちに会いに来てください。これからその機会が少しずつ備えられます。ご期待ください。

(三光幼稚園園長 高尾兼利)

6月の学童児童数

	4月末 在籍数	5月末 在籍数	6月 新規人数	6月初日 人数
1年生	7	8	2	10
2年生	1	2	0	2
3年生	0	0	0	0
計	8	10	2	12

毎月、永原学園地域子育てセンター“ぽぼら”に寄稿して頂く、西九州大学グループの教員の皆様の記事をさんこう児童クラブ通信にも重ねて掲載していきます。

「子育てストレスについて」

西九州大学子ども学部心理カウンセリング学科 教授 太田秀樹

まずストレスという言葉から説明します。われわれは日常的にストレスという言葉を使い、自身の心身の疲労を表現します。このことを少し詳しく述べると、自分に向かってくる刺激を自分にとって負担や害を生じさせるものだと判断すると、この刺激はストレスとなり、それによって心、身体に何らかの興奮状態が生じる—これをストレス反応と呼びます—という一連の流れのことをストレスと言います。つまりストレスによって心、身体が普段とは異なる状態になる一連の流れがストレスのことなのです。したがって、「子育てストレス」とは、子育てを自分自身にとって負担のあるものだと捉えることが、心、身体に何らかの興奮状態（普段とは異なる状態）を生じさせることに繋がります。そう考えると、ストレスとなっている子育てをしない、という選択肢を選べば、このストレス反応から逃れることができる、と理屈では言うことができます（実際、育児放棄をしてしまう人はいますが）。

しかし、一般的に子育ては少なくとも親が行うことになっています。こんな書き方をすると「子育て」と私に間に心的距離が生まれるので、「子育て」を私に近づけてみたいと思います。子を持つと男親でも、子への愛、子育てへの愛が生まれます。母親であれば、もっと凄いなんでしょう。でも、わが子でさえ親の思い通りにはならないし、様々なことで困らせてくれます。これが、ストレスになるのですが、残念ながらこのストレスは消し去れません。しかも基本的に子どもは親を困らす意図をもって行動していないのですから。

したがって、ストレス反応を軽減することを考えるしかない、と思います。人類学者ターナーは「コミュニタス」という関係性を述べています。これは、自他の違いは尊重しつつ、「あの人が楽しんでいるなら、私も楽しんでいいのだ」「あいつがしんどいのだったら、私もしんどいよ」と自然に思える関係性のことです。きっと、周りの人たちと「コミュニタス」を作れるはずで。所謂「ママ友」です（「パパ友」、「子育て仲間」もそうでしょう）。ストレス理論では、こういう仲間をソーシャルサポートと呼びます。私たちは、何らかのソーシャルサポートなしでは、ストレス反応を軽減できません。もちろん仲間における自他の違い（それぞれの生き方の違い）は尊重しましょう。でないと、大人になっても思春期レベルの仲間外れが起きるからです。